

平成 23 年度 自己点検・評価書

平成 24 年 3 月

佐賀大学

保健管理センター

I. 日常業務である保健管理センター活動について

平成 23 年度における保健管理センターの日常業務に関して、その活動報告および自己評価を行う。
まず、本庄キャンパスにおける日常業務の活動報告および自己評価を行う。

1. 定期健康診断

新入生 1,221 名中 1,218 名 (99.8%) が定期健康診断を受けた。在学生の 2 年生は 1,213 名中 961 名 (79.2%)、3 年生は 1,251 名中 1,144 名 (91.4%)、4 年生は 1,267 名中 1,114 名 (90.3%)、それ以降の学生は 453 名中 202 名 (44.6%)、大学院・研究生などは 932 名中 699 名 (75.0%) であり、総計 6,337 名中 5,368 名 (84.7%) であった。

平成 22 年度は 82.1% であったが、本年度は 84.7% と増加傾向を示した。

2. 新入生健康診断

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、やせ (BMI 18 未満) が 111 名、肥満 (BMI 30 以上) が 31 名、アレルギー鼻炎 18 名、アトピー性皮膚炎が 11 名、高血圧傾向が 14 名、心雑音・不整脈が 10 名、尿蛋白・潜血陽性 8 名、などであった。また、結核の既往歴がある学生が 1 名、側彎 8 名、心拡大 2 名がみられた。心電図検査結果では、ST-T 異常が 24 名、平低 T・陰性 T が 17 名、心室性期外収縮が 12 名、不完全右脚ブロック、WPW 症候群、心室内伝導障害がそれぞれ 11 名、などがみられた。

3. 新入生健康調査

心理面のスクリーニングを行うために、本年度は新入生、卒業予定学生 (学部学生) および大学院生へ「一般健康調査票 (CMHQ)」「College Mental Health Questionnaire」を配布した。それぞれの結果のまとめを以下に提示する。

新入生：回収率は、1,210 名中 1,206 名 (99.7%) であり、昨年同様に高かった。CMHQ のスコアが 20 点以上 (ストレス過剰の可能性) の学生は 146 名 (12.1%) であった。それらの学生の中で、126 名 (86.3%) に構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI) を施行した。頻度の高い診断としては、強迫性障害 9 名、大うつ病エピソード 6 名、パニック障害 5 名、全般性不安障害 4 名、躁病エピソード 4 名、社会恐怖 (社会不安性障害) 3 名、気分変調症 1 名、その他 (過敏性大腸炎、身体表現性障害、睡眠障害、発達障害など) 10 名、などが認められた。

卒業予定学生 (学部学生)：回収率は、1,686 名中 1,336 名 (79.2%) であった。CMHQ のスコアが 20 点以上 (ストレス過剰の可能性) の学生は 243 名 (18.2%) であった。それらの学生の中で、150 名 (61.7%) に構造化面接 Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI) を施行した。頻度の高い診断としては、大うつ病エピソード 17 名、強迫性障害 7 名、社会恐怖 4 名、パニック障害 3 名、躁病エピソード 1 名、外傷後ストレス障害 1 名、神経性大食症 1 名、全般性不安障害 1 名、その他 (過敏性大腸炎、身体表現性障害、睡眠障害、発達障害など) 8 名、などが認められた。

大学院生：回収率は、669 名中 540 名 (80.7%) であった。CMHQ のスコアが 20 点以上 (ストレス過剰の可能性) の学生は 64 名 (11.9%) であった。それらの学生の中で、43 名 (67.2%) に構造化面接

Mini-International Neuropsychiatric Interview (MINI)を施行した(昨年は23.9%)。頻度の高い診断としては、大うつ病エピソード7名、強迫性障害3名、パニック障害2名、社会恐怖1名、全般性不安障害1名、その他(過敏性大腸炎、身体表現性障害、睡眠障害、発達障害)1名、などが認められた。

全般的にみると、ストレスの度合は、卒業予定者(学部学生)18.2%>新入生12.1%>大学院生11.9%順に高かった。

4. 外国人留学生特別健康診断

前期と後期の対象者はそれぞれ、284名、82名であったが、受診者は前期195名(68.7%)、後期73名(89.0%)であった。異常所見または症状のある者について、前期では「やせ23名」「肥満4名」「喘息3名」「胃炎・十二指腸潰瘍3名」などであり、いずれも生活習慣やストレスに関するものであった。後期でも、同様の傾向が認められた。

前期及び後期で血液検査に認められる異常所見は、肝機能障害(脂肪肝)、HDLコレステロール低値、高脂血症、B型肝炎ウイルス陽性、高尿酸血症、貧血などであった。

心電図では、前期では「左軸偏位2名」「陰性T波1名」「上室性期外収縮1名」「R波増高不良1名」「除脈1名」など、後期では「Q波異常1名」などがみられた。

前期に異常が認められた留学生のフォローは21名中、改善が6名、不変が9名、悪化6名であった。

5. 外国人留学生保健管理センター使用状況

留学生286名中110名が保健管理センターを利用していた。利用者の延数は198名であった。利用の目的は、内科系疾患としては、呼吸器症状(風邪様症状)、その他の内科症状、消化器症状が多く、外科系疾患としては、骨・関節筋肉痛、擦過傷・切傷などが多かった。専門の医療機関を紹介したのは、198名中47名であった。

6. スポーツ学生健康診断

対象者761名中513名(67.4%)の受診者があった。異常所見としては心電図検査で25名が該当したが、経過観察とした。医療機関に通院中の学生が10名いたが、スポーツを行う上で、大きな支障が生じることはなかった。今年度はマネージャーを含む261名の学生にアルコールパッチテストを実施し、飲酒に対しての指導を行った。

7. 健康相談者数

内科系では270名(延数341名)、外科系では51名(延数59名)、心理系では198名(延数743名)、その他103名(延数128名)、総計622名(延数1,271名)の健康相談があった。医療機関の紹介を行った件数は363名であった。

8. 健康診断証明書発行状況

1年間を通じて、8,045通の健康診断証明書を発行した。発行件数が多い月は、3月(3,692件)、2月(2,426件)、6月(754件)、の順であった。3月の発行は、就職エントリー用の診断証明書が主であった。

9. 麻疹抗体検査実施状況

麻疹の流行に伴う大学等の教育実習生に対する指導に基づき、当大学においても感染拡大・防止のための教育実習生等を対象に麻疹の罹患歴・麻疹ワクチン接種状況の問診と抗体検査を実施することとした。第1回の実施では255名が検査を受け、第2回の実施では38名が検査を受けた。抗体値が低い学生に対しては、個別に医療機関を紹介し、ワクチン接種を勧奨した。

10. 保健管理センター利用状況

保健管理センターの利用件数は5,969件（学生4,916件・職員1,053件）であった。平成21年度では新型インフルエンザの流行、平成22年度では百日咳の流行があったが、本年度では感染症の流行がなかったため、例年と比べて、利用件数がやや減少していた。しかし、5,969件という利用件数は、本大学の保健管理センターが学生および職員の保健管理および治療において十分な役割を果たしていると考えられる。

<鍋島キャンパス>

【現状分析】

1. 定期健康診断

新入生166名中166名（100.0%）が定期健康診断を受けた。在学生の医学科全体としては610名中596名（97.7%）、看護学科は259名中257名（99.2%）、学部学生の総計は869名中853名（98.2%）であった。大学院生は社会人学生の割合も多く、208名中91名（43.8%）が受診した。

2. 新入生健康診断

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、アレルギー体質が6名、気管支喘息3名、やせ（BMI18.5%未満）が15名などであった。心電図検査結果では、ST-T異常が4名、洞性徐脈3名、不完全右脚ブロック2名などが認められた。

3. ワクチン接種状況

ムンプス42名・麻疹7名・風疹10名・水痘10名、延べ69名がワクチン接種対象となった。未接種者5名については、再度連絡を行いワクチン接種勧奨する。

B型肝炎ワクチンは、医学科4年86名・看護学科2年の58名、計144名が接種を受け、139名が陽転した。陽転しなかった学生については、1月・2月に追加接種を行い、3月末に確認検査を行う。

インフルエンザワクチン接種は、11月に実習学生および国家試験対象学年を中心とした479名が接種を受けた。

4. 健康相談（メンタルスクリーニング）

新入生については、これまで同様に入学時健康診断の結果で、ポイントの高い学生および健康状態について確認が必要な学生13名を対象に実施し、新入生については大きなトラブルはなかった。

H23年度は、昨年医学科4年生のスクリーニング面接に加え、バリア学年である医学科2年、看護学科3年を対象に全員スクリーニング面接を実施した。

看護学科3年は、留年した2名のうち1名を含む学生61名全員に実施した。留年した学生2名が10月復学し、チューター教員、実習担当教員と保健管理センターで連携しサポートを行った。留年した2名の学生のうち1名は実習終了し、1名は実習中断した。また、留年していない学生で、これまで特に

問題がなかった学生1名が実習中メンタル不調を訴え、実習を中断した。

医学科2年生は、平成23年6月29日～平成24年2月10日に実施。対象者113名中、98名が面談を受けた。医学科の過密な講義・実習の中でスクリーニングを実施したため、掲示板を確認し、情報管理できている学生と、できていない学生の傾向がわかった。スクリーニング面接未受診者のほうが、問題を抱えている場合もあり、実習参加状況・試験結果などチューター会議からの情報を得るなどし、本人・保護者への連絡を行った。医学科2年生の休学者は多く、サポートが最も必要な学年であった。

医学科4年生は平成23年10月12日～平成24年2月15日に実施。89名中、86名が受診した。スクリーニングを行うとともに、相談機関を周知する機会になった。

医学科5年生については、特に問題はなかった。医学科6年生については、卒業試験の前に2名がメンタル不調を訴え、卒業試験終了までサポートを行った。

5. 健康相談者数

内科系では350名(延数354名)、外科系では111名(延数132名)、心理系では32名(延数382名)、その他60名(延数68名)、総計553名(延数936名)の健康相談があった。医療機関の紹介を行った件数は93名であった。

6. 健康診断証明書発行状況

1年間を通じて、348通の健康診断証明書を発行した。発行件数が多い月は、12月(172件)、1月(57件)の順であった。12月は免疫の記録を卒業生全員に配布した。医学部は、就職先に提出する小児感染症・B型肝炎ワクチン接種・ツベルクリン反応検査などの免疫の記録に関する診断書発行件数が多かった。

7. 保健管理センター利用状況

保健管理センターの利用件数は6,148件(学生3,466件・職員2,682件)であった。

以上をまとめると、保健管理センターの利用状況に関しては、本庄および鍋島キャンパスのいずれも十分に学生および教職員が利用しており、また定期健康診断などの健診業務を通じて、大学における健康管理および安全管理に十分寄与していると思われる。

Ⅱ－Ⅰ 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員3名はそれぞれ講義および大学院生をもち、教育においても大学において貢献している。その具体的な内容を以下に示す。

本庄キャンパスに勤務する佐藤と木道については以下の通りである。

1. 講義

学内： 健康科学・前期(佐藤)

健康科学・後期(木道)

マラソン学(心電図の読み方等)(佐藤)

理工学部（機能物質科学）フレッシュマンセミナー（佐藤）
医学部・精神医学（コンサルテーション・リエゾン精神医学）（佐藤）
医学部医科学専攻・修士課程・精神心理学特論（佐藤）
医学部医科学専攻・博士課程・健康スポーツ学特論「ストレスと運動」（佐藤）
健康スポーツ学特論 医学部大学院博士課程（木道）

学外： 西九州大学大学院・精神保健福祉特論
放送大学（専門科目：心理と教育 | こころアレルギー）

2. 大学院生等指導

大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 2年生 濱田維子
大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 4年生 楊 春燕（学位申請中）
大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 4年生 岩本利恵（学位取得、卒業）
大学院医学系研究科修士課程医科学専攻入学予定者 柴 佳宝
大学院医学系研究科修士課程医科学専攻入学予定者 中村志織
（放送大学卒業指導後）
大学院医学系研究科修士課程医科学専攻入学予定者 竹岸智子

鍋島キャンパスでは、尾崎については、以下の通りである。

1. 講義等

尾崎岩太. 実習の安全管理：感染予防を中心に. 医学科 4年 臨床入門. 2011.1.23
尾崎岩太. 医学生健康管理. 医学科 3年 地域医療 Unit 1 PBL 講義. 2011.4.21.
尾崎岩太. 主題科目 ニュートリション&フィットネス講義. 医学部 1年. 2011.5.11, 2011.11.2
PBL チューター
Unit2 消化器 医学科 3年 2010.5.17&20, 2010.6.7&10

2. 大学院生等指導

大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 4年 夏 京合
社会人大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 1年 桑代卓也
研究生 斉 靖言

以上から、健康科学および内科、精神科領域の講義を担当し、さらには大学院生の指導を担当し、卒業生を輩出していることから、教育に関しても、十分な貢献を果たしていると考えている。

Ⅲ－Ⅰ 研究に関する状況と自己評価

研究に関しては、本来の業務に追われて、十分な研究が行われているとはいえないものの、研究報告および学会発表は、ある程度の業績を提出していると自負している。以下に、研究報告および学会発表

の内容を提示する。

本庄キャンパス（佐藤・木道）：

〔著書・総説〕

1. Nagamatsu M, Yano K, Sato T: Adolescent health, public health responses, and sex education program in Japan. *International Handbook of Adolescent Pregnancy: Medical, Psychosocial, and Public Health*, Springer Publishing Company in NYC (in press)
2. 山津幸司、佐藤 武：印刷教材を用いた介入評価と携帯電話フィードバックシステムの開発。厚生労働科学研究費補助金：循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「印刷教材と携帯電話フィードバックシステムを用いた食生活の改善及び運動指導プログラムの開発に関する研究」、pp. 5-12, 2011.
3. 佐藤 武：嗜癮行動障害 5. インターネット依存（携帯電話依存）。脳とこころのプライマリ・ケア（監修：日野原重明、宮岡 等）。(株)シナジー出版事業部、東京 pp. 432-441, 2011.
4. 佐藤 武：最近のうつ病の特徴とその対応。CAMPUS HEALTH 48(1):65-67, 2011.
5. 佐藤 武：「五月病を考える」成熟の観点から考える。精神科 18(4):441-445, 2011.
6. 国立大学法人保健管理施設協議会メンタルヘルス委員会・自殺問題検討ワーキンググループ：大学生の自殺対策ガイドライン 2010. pp. 1-17, 2011.
7. 佐賀大学(当番大学)：第 40 回九州地区大学保健管理研究協議会報告書 pp.1-125, 2011. 佐藤 武：自律訓練法。専門医をめざす人の精神医学（第 3 版）（編集：山内俊雄、小島卓也、倉知正佳、鹿島晴雄）pp. 693-694、医学書院、東京、2011.
8. 佐藤 武：自殺予防のための具体的方策。第 13 回フィジカルヘルス・フォーラム報告書、2011.

〔研究・症例報告〕

1. Guo W, Kawano H, Piao L, Itoh N, Node K, and Sato T. Effects of aerobic exercise on lipid profiles and high molecular weight adiponectin in Japanese Workers. *Intern Med* 50:389-95, 2011.
2. Nagamatsu M, Sato T, Nakagawa A, Saito H: HIV prevention through extended education encompassing students, parents, and teachers in Japan. *Environmental Health and Preventive Medicine* p.1-13, 2011(EPub).
3. Guo W, Kawano H, Piao L, Itoh N, Node K, Sato T: Effects of aerobic exercise on lipid profiles and high molecular weight adiponectin in Japanese workers. *Pre Symptomatic Medicine and Anti Aging* 20:179-186, 2011（奨励論文）
4. Iwamoto R, Yamawaki, N, Sato T: Increased self-transcendence in patients with intractable diseases. *Psychiatry Clin Neurosciences* 65(7):638-47, 2011.
5. Nagamatsu M, Yamawaki N, Sato T, Nakagawa Aki, Saito H: Factors Influencing attitudes to sexual activity among early adolescents in Japan. *J Early Adolescence* (in press)
6. Yang C, Yamawaki N, Miyata M, Sato T: Prevalence and risk factors of Internet addiction: A cross-National comparison between Japanese and Chinese freshmen. *Transcultural Psychiatry* (under revised)
7. 佐藤 武：大学生のメンタルヘルス：諸外国との比較からみた日本の問題。日本社会精神医学会雑誌

誌 20(4):387-392, 2011.

8. 粥川裕平、安宅勝弘、佐藤 武、杉田義郎、影山任佐：「健康白書2005」に見る日本の大学生の精神的不具合と、就職氷河期におけるメンタルヘルス支援の課題. 日本社会精神医学会雑誌 20(4):363-371, 2011.
9. 安宅勝弘、影山任佐、粥川裕平、佐藤 武、杉田義郎：実証的データに基づくキャンパス・ストレス性障害・過労の防止運動（SRO運動）と大学院生休退学・死亡実態全国調査. 日本社会精神医学会雑誌 20(4):355-362, 2011.
10. Yamawaki N, Sato T: Beliefs about causes of and risk factors for mental disorders: A comparison of Japanese and American college students. 第33回全国大学メンタルヘルス研究会報告書 (in press)
11. 花田陽子、岩本利恵、島ノ江千里、佐藤 武、新地浩一：佐賀大学におけるキャンパス・ソーシャルワーカー制度～制度導入から現在までの実績と評価～. 第33回全国大学メンタルヘルス研究会報告書 (in press)

〔学会発表〕

1. 佐藤 武（助言者）：教職員のメンタルヘルス. 九州地区大学メンタルヘルス研究協議会、大分大学、平成23年9月15日～16日、大分.
2. 佐藤 武：大学保健管理センターと地域医療機関とのリエゾン・アウトリーチ活動. 社会でのリエゾン～広がるアウトリーチ～. 第24回日本総合病院精神医学会総会、平成23年11月30日～12月1日、福岡.
3. 佐藤 武：大会長講演「なぜ日本人大学生は自信がないのかー諸外国との比較ー」第27回日本精神衛生学会大会、平成23年12月9日～11日、佐賀.
4. 花田陽子、岩本利恵、島ノ江千里、佐藤 武、新地浩一：佐賀大学におけるキャンパスワーカーの必要性. 第27回日本精神衛生学会大会、平成23年12月9日～11日、佐賀.
5. Yamawaki N, 佐藤 武：Beliefs about causes of and risk factors for mental disorders: A comparison of Japanese and American college students. 第33回全国大学メンタルヘルス研究会、平成24年1月28日～29日、福岡.
6. 花田陽子、岩本利恵、島ノ江千里、佐藤 武、新地浩一：佐賀大学におけるキャンパスワーカー制度～制度導入から現在までの実績と評価～. 第33回全国大学メンタルヘルス研究会、平成24年1月28日～29日、福岡.
7. 安宅勝弘、影山任佐、齋藤憲司、佐藤 武、粥川裕平：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査ー平成21年度調査結果を中心に. 第33回全国大学メンタルヘルス研究会、平成24年1月28日～29日、福岡.

〔司会など〕

1. 佐藤 武（大会長）：第27回日本精神衛生学会大会、平成23年12月9日～11日、佐賀大学医学部、佐賀.

鍋島キャンパス（尾崎）：

〔著書〕

高橋宏和, 岩根紳治, 江口有一郎, 水田敏彦, 磯田広史, 桑代卓也, 大枝敏, 河口康典, 和泉賢一, 安西慶三, 尾崎岩太, 藤本一眞. 酸化ストレスマーカー「血清 d-ROMs 値」と C 型慢性肝炎の病態. 酸化ストレスと肝疾患 第 7 巻 139-144. 2011. メディカルトリビューン. 東京

[原著論文]

1. Kakimoto T, Shiraishi R, Iwakiri R, Fujimoto K, Takahashi H, Hamajima H, Mizuta T, Ideguchi H, Toda S, Ozaki I, Matsushashi S. Expression patterns of the tumor suppressor PDCD4 and correlation with b-catenin expression gastric cancers. *Oncol Rep* 2011; 26(6): 1385-92.
2. Akiyama T, Mizuta T, Kawazoe S, Eguchi Y, Kawaguchi Y, Takahashi H, Ozaki I, Fujimoto K. Body mass index is associated with age-at-onset of HCV-infected hepatocellular carcinoma patients. *World J Gastroenterol.* 2011; 17(7):914-21.
3. Takahashi H, Mizuta T, Eguchi Y, Kawaguchi Y, Kuwashiro T, Oeda S, Isoda H, Oza N, Iwane S, Izumi K, Anzai K, Ozaki I, Fujimoto K. Post-challenge hyperglycemia is a significant risk factor for the development of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis C. *J Gastroenterol.* 2011; 46(6): 790-8.
4. Kobayashi Y, Kawaguchi Y, Mizuta T, Kuwashiro T, Oeda S, Oza N, Takahashi H, Iwane S, Eguchi Y, Anzai K, Ozaki I, Fujimoto K. Metabolic factors are associated with serum alanine aminotransferase levels in patients with chronic hepatitis C. *J Gastroenterol.* 2011; 46(4):529-535..
5. Eguchi Y, Mizuta T, Sumida Y, Ishibashi E, Kitajima Y, Isoda H, Horie H, Tashiro T, Iwamoto E, Takahashi H, Kuwashiro T, Soejima S, Kawaguchi Y, Oda Y, Emura S, Iwakiri R, Ozaki I, Eguchi T, Ono N, Anzai K, Fujimoto K, Koizumi S. The pathological role of visceral fat accumulation in steatosis, inflammation, and progression of nonalcoholic fatty liver disease. *J Gastroenterol.* 2011; 46 Suppl 1:70-8.
6. Zhang H, Ozaki I, Hamajima H, Iwane S, Takahashi T, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Yamamoto K, Mizuta T. Vitamin K2 augments 5-fluorouracil-induced growth inhibition of human hepatocellular carcinoma cells by inhibiting NF- κ B activation. *Oncol Rep.* 2011; 25(1):159-66.
7. 岡田倫明, 岩根紳治, 高橋宏和, 磯田広史, 中下俊哉, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦. 1 型高ウイルス量 C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN+RBV 治療における性差の解析—インスリン抵抗性と内臓脂肪蓄積の関連について—. *医学と薬学* 2011: 66(3): 468

[総説]

Ozaki I, Hamajima H, Matsushashi S, Mizuta T. Regulation of TGF- β 1-induced pro-apoptotic signaling by growth factors and extracellular matrix receptor integrins in the liver. *Frontiers in Physiology* 2011, 2: 78-85.

[学会等]

1. Ario K, Mizuta T, Eguchi Y, Kawaguchi Y, Oza N, Akiyama T, Iwane S, Takahashi H, Yasutake T, Ozaki I, Koga M, Fujimoto K. Presence and severity of esophageal varices are associated with nonhemorrhagic death in patients with hepatocellular carcinoma. 5th ILCA Annual Conference 2011, 9, 2-4() Final

programme & Book of Abstracts: p47

2. Eguchi Y, Kitajima Y, Ono M, Mizuta T, Ishibashi E, Ozaki I, Oda Y, Ono N, Eguchi T, Anzai K, Iwakiri R, Koizumi S, Fujimoto K. The decrease of intra-muscular adipose tissue content is an independent target for treatment of nonalcoholic steatohepatitis/nonalcoholic fatty liver disease. 46th Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver. 2011, 3, 30-4, 3(). J Hepatol 2011; 54 suppl: S333
3. Hirai K, Ozaki I, Mizuta T, Maeyama T. Is it possible to get rid of the worst mortality rate of hepatocellular carcinoma in Japan? Evaluation of the effect of interferon therapy on patients with chronic hepatitis C for the prevention of HCC through cooperation among doctors with various specialists in the local medical association. APASL 2nd Hepatocellular Carcinoma Conference 2011, 12, 1-3(). Final Program & Abstract Book: p27.
4. Oeda S, Mizuta T, Isoda H, Kuwashiro T, Iwane S, Kawaguchi Y, Ozaki I, Fujimoto K. The advantage in long-term survival of radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma patients: Historical comparison with ethanol injection. Digestive Disease Week (DDW) 2011. 2011, 5, 7-10(). Gastroenterology 140(suppl 1): S-925.
5. Takahashi H, Mizuta T, Eguchi Y, Iwane S, Ozaki I, Fujimoto K. Serum derivatives of reactive oxidative metabolites as a predictor of response to interferon therapy for chronic hepatitis C. AASLD 62nd The Liver Meeting 2011. 2011, 11, 4-8(San Francisco). 2011, 11, 4-8. Hepatology 54(suppl): 851A.
6. Xia HJ, Ozaki I, Matsushashi S, Hamajima H, Iwane S, Takahashi H, Eguchi Y, Mizuta T. Role of PKC isoforms and PKD1 in the inhibition of NF- κ B activation by a vitamin K2 in human hepatocellular carcinoma cells. AASLD 62nd The Liver Meeting 2011(San Francisco). 2011, 11, 4-8. Hepatology 54(suppl):715A.
7. 尾崎岩太、浜島弘、夏京合、高橋宏和、岩根紳治、河口康典、江口有一郎、松橋幸子、水田敏彦. Novel Protein kinase C (PKC) isoform による腫瘍抑制遺伝子 PDCD4 の発現調節 第 47 回日本肝臓学会総会 ワークショップ 13. 2011. 6. 2-3. ホテルグランパシフィック (東京) 肝臓 2011; 52: suppl(1): A
8. 尾崎岩太、平井賢治、水田敏彦. 佐賀県における肝炎ウイルスキャリアと助成制度によるウイルス肝炎治療状況. 第 15 回日本肝臓学会大会 パネルディスカッション 5. 2011. 10. 20-21. 福岡国際会議場 (福岡) 肝臓 2011; 52 suppl(2): A520.
9. 尾崎岩太、江口有一郎、江口尚子、武富弥栄子、古川早苗、木道圭子、福島雅子、永渕久子、佐藤武. やっぱり大事! 職場のコミュニケーション - 医学部における疲労度調査から. 第 41 回九州地区大学保健管理協議会 2011. 8. 17-19. 久留米大学筑水会館 (久留米)
10. 尾崎岩太、原めぐみ、武富弥栄子、福岡麻美、田代克弥、木道圭子、古川早苗、福島雅子、永渕久子、佐藤武. 2010 年佐賀大学医学部キャンパスにおける百日咳流行について. 第 49 回全国大学保健管理研究集会 2011. 11. 9-10. 海峡メッセ下関 (下関) Campus Health 2011; 48(3): 91.
11. 北島陽一郎、江口有一郎、磯田広史、石橋絵理子、桑代卓也、高橋宏和、水田敏彦、尾崎岩太、安西慶三、小野尚文、藤本一眞、秋山巧、川添聖治、角田圭雄. 分岐鎖アミノ酸は肝と骨格筋に作用し肝硬変の病態を改善する. 第 15 回日本肝臓学会大会. 2011, 10, 20-21(福岡) 肝臓 52(suppl. 2): A642.
12. 北島陽一郎、江口有一郎、水田敏彦、磯田広史、岡田倫明、桑代卓也、高橋宏和、尾崎岩太、安西慶三、小野尚文、江口尚久、角田圭雄、木村友希、兵庫秀幸、藤本一眞. 非アルコール性脂肪肝炎の進展と骨格筋脂肪化の関連. 第 32 回日本肥満学会(). 2011, 9, 23-24. 日本肥満学会誌

17(suppl): 162.

13. 北島陽一郎, 江口有一郎, 水田敏彦, 磯田広史, 岡田倫明, 桑代卓也, 高橋宏和, 尾崎岩太, 安西慶三, 小野尚文, 江口尚久, 角田圭雄, 木村友希, 兵庫秀幸, 小泉俊三, 藤本一眞. 非アルコール性脂肪性肝疾患での骨格筋脂肪化進展と非侵襲的肝線維化予測モデルとの関連. 第 47 回日本肝臓学会総会 2011, 6, 2-3. 肝臓 52(suppl 1): A187.
14. 松橋幸子, 夏京合, 薦田洋, 高橋宏和, 岩根紳治, 水田敏彦, 安西慶三, 藤本一眞, 尾崎岩太. ガン抑制遺伝子, PDCD4 をノックダウンすると肝癌細胞のアポトーシスを誘導する. 第 34 回日本分子生物学会年会 2011, 12, 13-16.
15. 水田敏彦, 岡田倫明, 岩根紳治, 高橋宏和, 江口有一郎, 磯田広史, 中下俊哉, 尾崎岩太, 藤本一眞. C型慢性肝炎に対するインターフェロン治療における内臓脂肪蓄積の意義. 第 32 回日本肥満学会 2011, 9, 23-24. 日本肥満学会会誌 17(suppl): 162.
16. 岡田倫明, 高橋宏和, 岩根紳治, 桑代卓也, 磯田広史, 大枝敏, 中下俊哉, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦. 内臓脂肪蓄積は C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN+RBV 治療の抗ウイルス効果に影響を与える. 第 15 回日本肝臓学会大会 2011, 10, 20-21. 肝臓 52(suppl. 2): A658.
17. 高橋宏和, 江口有一郎, 水田敏彦, 岩根紳治, 桑代卓也, 大枝敏, 磯田広史, 河口康典, 和泉賢一, 安西慶三, 尾崎岩太, 藤本一眞. C型慢性肝炎に対する IFN 治療における酸化ストレスマーカー d-ROMS 測定の意味. 第 97 回日本消化器病学会総会. 2011, 5, 13-15. 日本消化器病学会雑誌 108(suppl): A232.
18. 高橋宏和, 柿本隆志, 白石良介, 岩切龍一, 藤本一眞, 浜島弘史, 岩根紳治, 水田敏彦, 尾崎岩太, 松橋幸子. 消化器がんの浸潤・転移とガン抑制遺伝子, PDCD4 の機能. 第 22 回日本消化器癌発生学会総会 2011, 11, 25-26. プログラム・抄録集: 56.
19. 高橋宏和, 水田敏彦, 岩根紳治, 江口有一郎, 磯田広史, 桑代卓也, 大枝敏, 河口康典, 和泉賢一, 安西慶三, 尾崎岩太, 藤本一眞. 酸化ストレスマーカーを用いた C 型慢性肝炎に対するインターフェロン療法の効果予測. 第 47 回日本肝臓学会総会 2011, 6, 2-3. 肝臓 52(suppl 1): A202.
20. 竹下枝里, 磯田広史, 岩根紳治, 桑代卓也, 大枝敏, 河口康典, 江口有一郎, 水田敏彦, 尾崎岩太, 藤本一眞. 短期間で 2 度 C 型急性肝炎を発症した一例. 第 97 回日本消化器病学会総会 2011, 5, 13-15. 日本消化器病学会雑誌 108(suppl): A246.
21. Xia J, Matsushashi S, Hamajima H, Iwane S, Takahashi H, Mizuta T, Fujimoto K, Kuroda S, Ozaki I. Role of PKC isoforms in the inhibition of NF- κ B activation by a vitamin K2 in human hepatocellular carcinoma cells. 第 34 回日本分子生物学会年会 2011, 12, 13-16. プログラム: 358
22. 荒木紀匡, 磯田広史, 桑代卓也, 大枝敏, 高橋宏和, 岩根紳治, 江口有一郎, 水田敏彦, 尾崎岩太, 藤本一眞. PEG-IFN α 2a/Ribavirin 併用療法中に急激な血小板減少を来した C 型慢性肝炎の 1 例. 第 97 回日本消化器病学会九州支部例会. 2011, 6, 24-25. プログラム・抄録集: 177.
23. 荒木紀匡, 磯田広史, 岡田倫明, 中下俊哉, 高橋宏和, 岩根紳治, 江口有一郎, 水田敏彦, 尾崎岩太, 藤本一眞. Wilson 病に認めた肝細胞癌の 1 例. 第 98 回日本消化器病学会九州支部例会 2011, 11, 18-19. プログラム・抄録集: 174.
24. 岩根紳治, 河口康典, 岡田倫明, 磯田広史, 中下俊哉, 高橋宏和, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦. インスリン抵抗性を示す C 型慢性肝炎に対する食事・運動療法の有用性. 第 98 回日本消化器病学会九州支部例会. 2011, 11, 18-19. プログラム・抄録集: 96 (シンポジウム)

25. 岡田倫明, 小野尚史, 磯田広史, 中下俊哉, 江口有一郎, 水田敏彦, 尾崎岩太, 江口尚久, 藤本一眞. かかりつけ医におけるC型慢性肝炎に対するインターフェロン治療の現状. 第39回日本肝臓学会西部会. 2011, 12, 9-10. 肝臓 52(suppl.3): A919.
26. 横尾摩耶, 岡田倫明, 田代宏樹, 磯田広史, 中下俊哉, 高橋宏和, 岩根紳治, 高橋浩一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦, 藤本一眞. ピルフェニドンによる薬物性肝障害の一例. 第98回日本消化器病学会九州支部例会. 2011, 11, 18-19. プログラム・抄録集: 171.
27. 有尾啓介, 水田敏彦, 江口有一郎, 河口康典, 大座紀子, 秋山巧, 岩根紳治, 高橋宏和, 安武努, 尾崎岩太, 藤本一眞, 古賀満明. 肝細胞癌の予後における食道静脈瘤の意義について—RFA 治療症例の予後因子、死因分析より—. 第47回日本肝臓研究会. 2011, 7, 28-29. プログラム・抄録集: 267
28. 岡田倫明, 岩根紳治, 高橋宏和, 磯田広史, 中下俊哉, 江口有一郎, 尾崎岩太, 水田敏彦. 1型高ウイルス量C型慢性肝炎に対するPEG-IFN+RBV治療における性差の解析—インスリン抵抗性と内臓脂肪蓄積の関連について—. 第7回消化器病における性差医学・医療研究会. 2011, 7, 23. プログラム・抄録集: P-28
29. 高橋宏和, 江口有一郎, 岩根紳治, 中下俊哉, 磯田広史, 岡田倫明, 和泉賢一, 蘆田健二, 水田敏彦, 安西慶三, 尾崎岩太, 戸田修二, 藤本一眞. C型慢性肝炎における皮下・内臓脂肪細胞径の意義. 第8回酸化ストレスと肝臓研究会. 2011, 11, 27.
30. 高橋宏和, 水田敏彦, 江口有一郎, 岩根紳治, 岡田倫明, 磯田広史, 和泉賢一, 蘆田健二, 安西慶三, 尾崎岩太. C型肝炎の線維化進展例における高血糖発現の機序. 第13回肝不全治療研究会 2011, 9, 16. プログラム・抄録集: P-18.

科学研究費補助金など

1. 平成24年度挑戦的萌芽研究 「非侵襲的検査によるBrugada型心電図の予後予知」(木道、申請)
2. 平成21年度厚生労働科学研究費「印刷教材と携帯電話フィードバックシステムを用いた食生活の改善及び運動指導プログラムの開発に関する研究(21180401)(研究分担者:佐藤 武)(新規:3年計画)
3. 総務省:サガン鳥栖健康増進プログラム推進事業(サガン鳥栖健康増進プログラム地域協議会会長:佐藤 武)(予算は2010年度、事業は5年間).
4. 郭偉・佐藤武「財団法人博慈会老人病研究所平成23年度奨励論文」受賞.
5. Niwako Yamawaki (Associate Professor: Brigham Young University)「平成23年度日本学術振興会外国人招聘研究者(長期)」(受入:佐藤 武、保健管理センター)
6. 受託研究(佐賀県健康福祉本部)
研究題目:C型肝炎等に関する予防啓発事業(J110200026) 受託研究費 ¥191,200

保健管理センターは本来、厚生福利施設ではあるが、上記のように、かなり積極的に研究業績を作り上げ、十分な評価に耐えられるものである。特に、不足という問題はみられない。

IV-I 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、地域の方々から、講演を依頼されることが多々ある。時間の許す範囲で、で

きるだけ、フィジカルおよびメンタルに関する社会連携・貢献を果たしている。その内容を以下に列記する。

本庄キャンパス（佐藤・木道）：

講演

1. 木道圭子：生活習慣病について 佐賀県警職員研修会 平成23年11月8日 佐賀商工会館.
2. 木道圭子：生活習慣病について 佐賀県警職員研修会 平成23年11月24日 佐賀商工会館.
3. 木道圭子：生活習慣病について ～突然死しないためには～ 労働安全衛生講演会 平成23年12月1日 大学会館多目的ホール.
4. 木道圭子：生活習慣病について 県警交通機動隊 生活習慣病対策健康講話 平成24年2月13日 佐賀県警本部交通部交通機動隊 隊舎会議室.
5. 佐藤 武：人との接し方. 佐賀大学新入生アドバイザー研修会、佐賀大学、平成23年4月5日、佐賀.
6. 佐藤 武：新入生のメンタルヘルス予防. 佐賀大学農学部、佐賀大学、平成23年4月26日、佐賀.
7. 佐藤 武：大震災とメンタルヘルス. NBC ラジオ、平成23年5月6日、佐賀.
8. 佐藤 武：大学生生活から有意義に過ごすには. 佐賀大学工学系研究会「フレッシュマンセミナー」、平成23年5月20日、佐賀.
9. 佐藤 武：発達障がい者とその家族. 佐賀北高等学校、平成23年5月28日、佐賀.
10. 佐藤 武：ユッケによる食中毒を考える. NBC ラジオ、平成23年6月1日、佐賀.
11. 佐藤 武：心電図の読み方とマラソン中の仕事. アミノバリューホノルルマラソン、平成23年6月11日、佐賀.
12. 佐藤 武：マラソン学. アミノバリューホノルルマラソン、平成23年6月16日、佐賀.
13. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス. 佐賀大学中堅職員研修、平成23年6月20日、佐賀.
14. 佐藤 武：ピカピカ☆サガントス. 高木瀬公民館、平成23年7月27日、佐賀.
15. 佐藤 武：放射線が及ぼす人体への影響. NBC ラジオ、平成23年7月29日、佐賀.
16. 佐藤 武：教職員のメンタルヘルス. 中原小学校、平成23年8月8日、佐賀.
17. 佐藤 武：中高年のメンタルヘルス. いのちの電話、平成23年8月10日、佐賀.
18. 佐藤 武：職員のストレス予防と対処. 県立唐津特別支援学校、平成23年8月24日、唐津.
19. 佐藤 武：精神の発達とその課題－発達障害やうつ病の心理相談から－. 教員免許状更新講座、佐賀大学医学部、平成23年8月25日、佐賀.
20. 佐藤 武：ストレスとの上手なつきあい方. 健康・メンタルヘルス出前講座、嬉野小学校、嬉野.
21. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス（フォローアップ研修）. 佐賀大学職員研修、佐賀大学、平成23年9月6日、佐賀.
22. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス（副課長レベル研修）. 佐賀大学職員研修、佐賀大学、平成23年9月6日、佐賀.
23. 佐藤 武：現代におけるうつ病や発達障害. 家庭裁判所調査官自庁研修、佐賀家庭裁判所、平成23年10月6日、佐賀.
24. 佐藤 武：ロハスの生き方. NBC ラジオ、平成23年10月11日、佐賀.
25. 佐藤 武：ハラスメント～思いやりのない行動～. 農学部教授会、平成23年10月19日、佐賀.
26. 佐藤 武：メタボレルライフのための医学的アプローチ. スマートライフスタイル研究成果とメタ

ボ予防の Check, Plan, Action. 佐賀大学、平成 23 年 11 月 3 日、佐賀。

27. 佐藤 武：ロハスと解病. 佐賀県医師会「歩こう会」、佐賀県医師会、平成 23 年 11 月 13 日、嬉野。
28. 佐藤 武：看護者におけるストレスとうつ. 佐賀県看護協会新人看護研修、平成 23 年 11 月 22 日、佐賀。
29. 佐藤 武：元サイコオンコロジストの闘癌体験、NBC ラジオ、平成 23 年 12 月 20 日、佐賀。
30. 佐藤 武：うつ病. いのちの電話、アバンセ、平成 23 年 12 月 21 日、佐賀。
31. 佐藤 武：うつ病. いのちの電話、メートプラザ、平成 23 年 12 月 24 日、佐賀。
32. 佐藤 武：ハラスメント～思いやりのない行動～. 佐賀大学工学系研究科教授会、平成 24 年 1 月 11 日、佐賀。
33. 佐藤 武：取り調べにおける心理状態. 九州管区警察官取調研修会. 九州管区警察局、平成 24 年 2 月 21 日、福岡。
34. 佐藤 武：癌体験のその後. NBC ラジオ、平成 24 年 3 月 7 日、佐賀。
35. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス. 神埼消防署、平成 24 年 3 月 14 日、神埼。

市民活動

1. 郭 偉、佐藤 武：「メタボ・うつ解消！パワーエアロビクス」（3ヶ月コース）。佐賀新聞文化セミナー（平成 23 年 4 月 1 日～同年 6 月 30 日）、佐賀。
2. 佐藤 武、石丸よし子、柴 佳宝：「メタボ・うつ・ロコモ解消！パーフェクトボディ」（3ヶ月コース）。佐賀新聞文化セミナー（平成 23 年 10 月 1 日～同年 12 月 31 日）、佐賀。
3. 佐藤 武、石丸よし子、柴 佳宝：「メタボ・うつ・ロコモ解消！パーフェクトボディ」（3ヶ月コース）。佐賀新聞文化セミナー（平成 24 年 1 月 1 日～同年 3 月 31 日）、佐賀。

鍋島キャンパス（尾崎）：

1. 尾崎岩太. 佐賀県の肝疾患対策への取り組み 2011. 佐賀県検診実務者研修会 2011. 3. 3 佐賀県医師会成人病センター（佐賀市）
2. 尾崎岩太. 佐賀県のウイルス性肝炎：検診と治療の現状. 佐賀県肝炎専門医療従事者研修会 2011. 3. 23 アバンセ（佐賀市）
3. 尾崎岩太. 病院で働き始める前に. 佐賀大学医学部附属病院看護師オリエンテーション. 2011. 4. 6
4. 尾崎岩太. 病院で働き始める前に. H23 年度佐賀大学医学部附属病院研修医オリエンテーション. 2011. 4. 8
5. 尾崎岩太. 佐賀県におけるウイルス肝炎疫学の現状. 佐賀県透析医部会学術講演会 2011. 4. 21 ホテルマリターレ創世（佐賀市）
6. 尾崎岩太. 佐賀県の肝疾患の現状. もっと知ろう肝臓病のこと：栄養の常識・非常識すべて教えます. 第 11 回佐賀県県民公開講座 2011. 6. 25 アバンセ（佐賀市）
7. 尾崎岩太. 感染症から見える時代の変化. 武雄高校ジョイントセミナー 2011. 7. 14 武雄高校（武雄市）
8. 尾崎岩太. 学校における疾病予防と保健管理. 平成 23 年度教員免許更新講習会. 2011. 8. 24 佐賀大学医学部（佐賀市）

9. 尾崎岩太, ウイルス性肝炎：治療のリスクとベネフィット, 神崎市郡医師会講演会 2011.9.5 竹下 (神崎市)

この領域も日々の多忙な業務の中、地域の要請にできるだけ答えるように努力し、その成果は得られていると思われる。

V-I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

佐賀大学における学内の各種委員会に積極的に参加し、学内の学生および教職の問題点に保健管理センターとして、意見を述べている。それぞれの教員の参加している委員会を列記する。

佐藤 武：

〔学内〕

保健管理センター運営委員会（委員長）・労働安全衛生委員会（委員長）・学生モニター会議委員・入試委員会・学生委員会（オブザーバー）・大学教育委員会（オブザーバー）・教育室会議委員・遺伝子組換え実験安全委員会・医学部研究科委員会・産業医・附属中学校保健委員・附属特別支援学校保健委員・施設協議会委員

〔学外〕

全国大学保健管理研究協議会理事（メンタルヘルス委員会委員長）・全国大学メンタルヘルス研究会事務局長・日本精神衛生学会理事・九州地区大学メンタルヘルス研究協議会運営委員、全国大学保健管理協会評議員・日本総合病院精神医学会評議員・日本サイコオンコロジー学会世話人・九州地区大学保健管理研究協議会評議員・九州精神神経学会評議員など。

〔査読委員〕

「総合病院精神医学雑誌」「INFORMATION An International interdisciplinary Journal」「Asian-Information-Science-Life」「精神神経学雑誌」「日本ペインクリニック学会誌」「九州神経精神医学」など。

木道 圭子：

〔学内〕

保健管理センター運営委員会（委員）・本庄地区労働安全衛生委員会（委員、産業医）・本庄地区産業医・ハラスメント相談員

尾崎岩太：

〔学内〕

佐賀大学環境安全衛生管理室員・佐賀大学安全衛生管理委員会・佐賀大学医学部安全衛生委員会・佐賀大学医学部教育委員会（オブザーバー）・佐賀大学ハラスメント等相談委員・佐賀大学動物実験委員会・佐賀大学医学部附属病院放射線障害防止委員会・佐賀大学医学部及び附属病院エコアクション 21委員会・佐賀大学医学部附属病院社会保険委員会・佐賀大学医学部附属病院感制御部会議・佐賀大学鍋島事業場産業医

[学外]

佐賀県肝疾患対策委員会（委員長）

佐賀県肝炎治療助成費認定協議会

佐賀県国民健康保険診療報酬審査委員会

[査読委員]

Cancer Letters

Journal of Gene Medicine

この領域においても、各種委員会に可能な限り出席しており、十分な役割を果たしているといえる。